

# 安心して暮らせるまちづくりの為に

田中 武夫（足立区東和銀座商店街振興組合）

商店街の冬の時代と言われて久しくなります。地域社会の核として、また、街の顔と言われた商店街が、今や瀕死の状態になっております。空店舗の増加、消費者ニーズの変化、大型スーパーマーケットの出店ラッシュ、コンビニエンスストアの増加など、商店街を取り巻く環境は非常にきびしいものがあります。しかし、地域社会の中で商店街が果たしてきた役割は非常に大きいものがありました。地域社会の伝統文化の創生や継承、地域社会の諸行事への参加や支援など数えあげれば枚挙にいとまがありません。今後もその役割は益々大きくなっても、少なくなることはないでしょう。

現在、中心市街地活性化法の施行を受けて、全国それぞれの街で、街の活性化再生、TMOの認定を受けまちづくり実施に向けて行動している街や、まちづくり基本計画づくり、また構想策定に着手するなど各地で活発な活動が展開されております。まちづくりについては商店街が安心して暮らせる楽しい街の中核でなければなりません。毎日生活する私たちは、お互いに支え合い、高齢者も障害者も若い人たちと共に、楽しく心安らぐふれあいの場として、歩くだけでも暖かさを感じる街としての役割をもった商店街が必要です。

地域社会にあって商店街は、近くて便利な買物の場であると同時に、明るくて安全な地区として子供たちに、「何か不安なことがあれば商店に飛び込みなさい」とか、一人暮らしの高齢者が何か心寂しい時は、個人商店に

「おしゃべりに来て下さい」などと、商店街は地域社会の頼りになる街として存在するものでなければなりません。

足立区内の商店街はそれぞれの街で複数の店舗が「よろず相談所」の看板をかかげました。地域社会の皆さんが何か困ったことや、ちょっと相談したいことがあった時、ぜひ商店街に来てください。商店街は買物の為だけの街ではありません。一番頼りになるのは商店街です。ということを知って頂きたいと思い相談所の看板をあげたのです。足立区の「あんしんネットワーク」の尖兵として、地域社会の皆さんが安心して生活できるためのお役に立ちたいとの思いと同時に、商店街にヘルパー2級の有資格者を置くことを考え、11月よりヘルパー2級講習会に関係者の参加も計画しております。

人は一人では生きていけません。共に生き、支えあって生活する社会、そうした社会こそこれからの街です。誰だって楽しく過ごしたい、暖かい人間関係の中で生活したいと思うのは当然の願望です。そうした時、商店街の中に高齢者の集う場、お茶飲み場所が設置されれば、どれ程楽しいかわかりません。東和銀座商店街内にある障害者の皆さんのお店のよう、授産場で作られた製品が、商品として販売される場があれば、障害者の皆さんにとって大きな希望が生まれることでしょう。こうして支え合い、楽しく暖かい街として、商店街が活用されることが大切だと思います。